

## 古代京都における瓦の受容と渡来人 —北野麁寺と秦氏を中心に—

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 イ ウンジン 李 銀眞

### はじめに

古代日本における瓦は、崇峻元年(588)、飛鳥寺の造営を契機に百済の瓦博士によって伝わり、王宮・官庁・寺院などの国家的な造営事業の一環として大量生産された。そのため、瓦は建物の創建年代をはじめ、当時の政治・経済・文化交流の動向を把握できる遺物として重視される。今回の発表では、歴史資料としての瓦の概要・特徴を紹介し、京都最古の寺院である北野麁寺から出土した瓦を中心に古代京都における瓦の受容と渡来人の関係について考えたいと思う。

### I. 歴史資料としての瓦

- 1) 瓦の特質と利点
- 2) 瓦の種類
- 3) 瓦の作り方
  - ①丸瓦・平瓦(桶巻作り) \*一枚作り平瓦 ②軒丸瓦・軒平瓦 \*一本作り軒丸瓦
- 4) 瓦からの情報
  - ①製作年代、使用年代、廃棄年代
  - ②瓦の年代決定→建物の創建年代
    - ・創建瓦の抽出:「絶対多数の論理」
    - ・同範瓦:「範傷」「彫り直し」
    - ・再利用瓦
- 5) 瓦の起源と伝来
  - ①中国の瓦
  - ②朝鮮半島の瓦:高句麗、百済、新羅
  - ③日本への造瓦技術の伝播
    - ・『日本書紀』崇峻元年(588)、『元興寺伽藍縁起并流記資財帳』:百済の瓦博士 4 名の来日。  
→法興寺(飛鳥寺)の創建。
    - ・「花組」「星組」\*「豊浦寺式(雪組)」
    - ・畿内の「渡来系瓦」

### II. 古代京都における瓦受容と渡来人

- 1) 古代京都における寺院造営の歴史的背景

- ①仏教公伝と寺院造営
  - ②瓦生産体制
  - ③秦氏の造寺活動
- 2) 北野麁寺と広隆寺に関する諸説
    - ①創建年代:推古天皇 11 年創建説、推古天皇 30 年完成説、天智天皇 9 年創建説。
    - ②移建・非移建説
    - ③寺院名称:蜂岡寺、葛野秦寺、野寺・常住寺
  - 3) 考古学的資料の検討
    - ①伽藍配置
    - ②出土瓦
  - 4) 初期寺院造営と「渡来系瓦」に関する私見
  - 5) 寺院造営の波及と藤原宮

### まとめにかえて

#### 【主要参考文献】

- 網伸也 1995「広隆寺創建問題に関する考古学的私見」『古代探叢』IV 早稲田大学出版部
- 石田茂作 1944『総説飛鳥時代寺院址の研究』大塚巧藝社
- 稲垣晋也 1981「新羅の古瓦と飛鳥・白鳳時代古瓦の新羅的要素」『新羅と日本古代文化』吉川弘文館
- 上原真人 1997『瓦を読む』歴史発掘⑩ 講談社
- 上村和直 1995「広隆寺—移建か山背最古の寺—」『シンポジウム 古代寺院の移建と再建を考える』帝塚山考古学研究所
- 大川清 1996『古代のかわら』窯業史博物館
- 小笠原好彦 2005『日本古代寺院造営氏族の研究』東京堂出版刊
- 亀田修一 2006『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館
- 近藤喬一 1985『瓦からみた平安京』教育社歴史新書〈日本史〉40 教育社
- 清水昭博 2012『古代日韓造瓦技術の交流史』清文堂
- 京都市埋蔵文化財研究所 1983『北野麁寺 発掘調査報告書』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第 7 冊
- 藤沢一夫 1938「山城北野麁寺」『考古学』第九卷第二号 東京考古学会
- 藤沢一夫 1965「日鮮古代屋瓦の系譜」『世界美術全集』2 角川書店
- 森郁夫 1986『日本歴史考古学を学ぶ(下)』坂詰秀一・森郁夫編 有斐閣選書
- 山崎信二 2012『古代造瓦史—東アジアと日本—』雄山閣



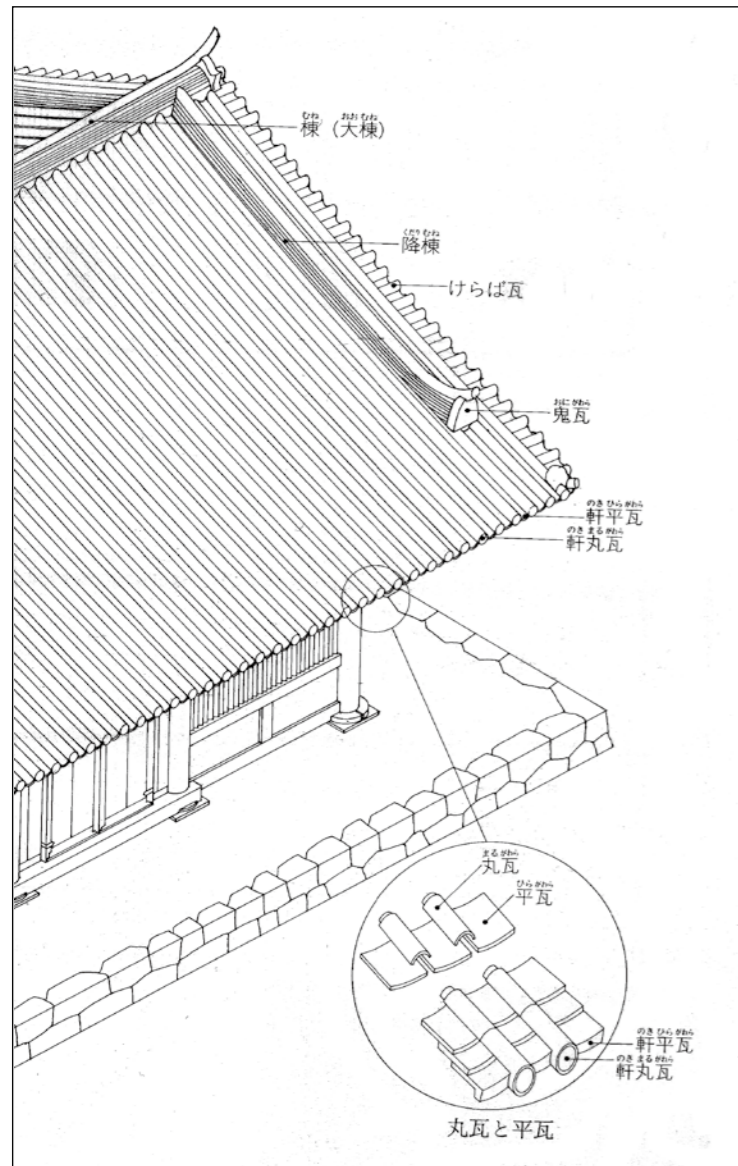


図1. 瓦の種類と使用場所 (西和夫1990『図解古建築入門』より)

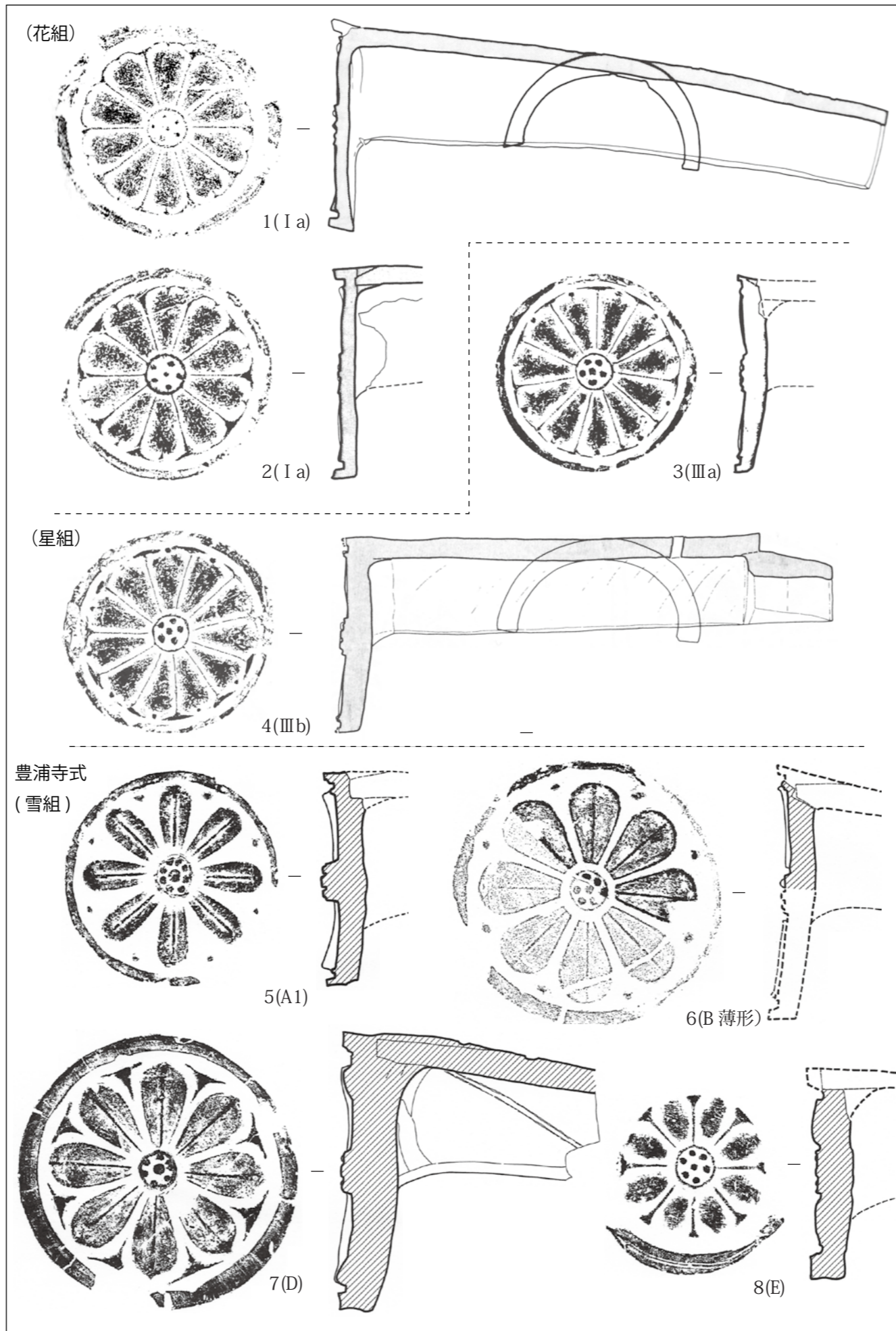


図3. 飛鳥寺と豊浦寺の創建瓦 (奈良文化財研究所 2000『古代瓦研究 I』より) S=1/4  
1~4: 飛鳥寺出土瓦 5~8: 隼上り窯跡出土瓦

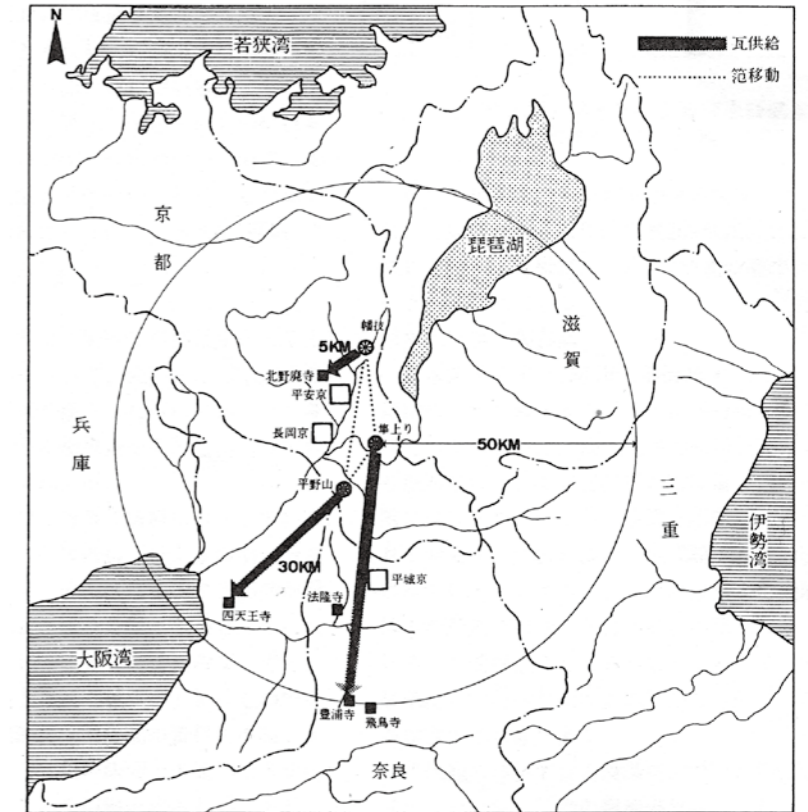


図4. (宇治市教育委員会 1989)

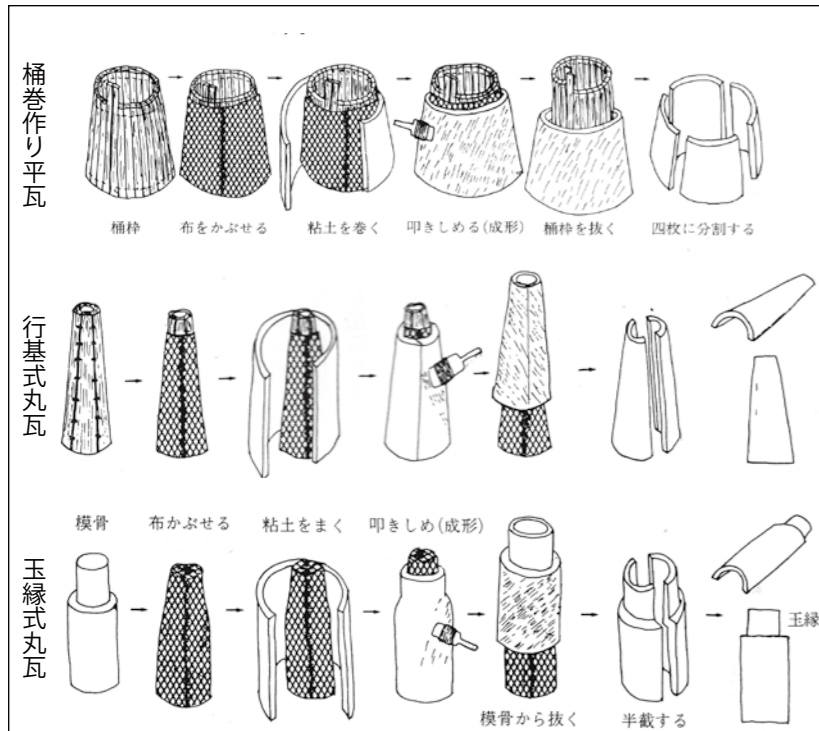


図2. 丸瓦・平瓦の作り方(上田 1987より)

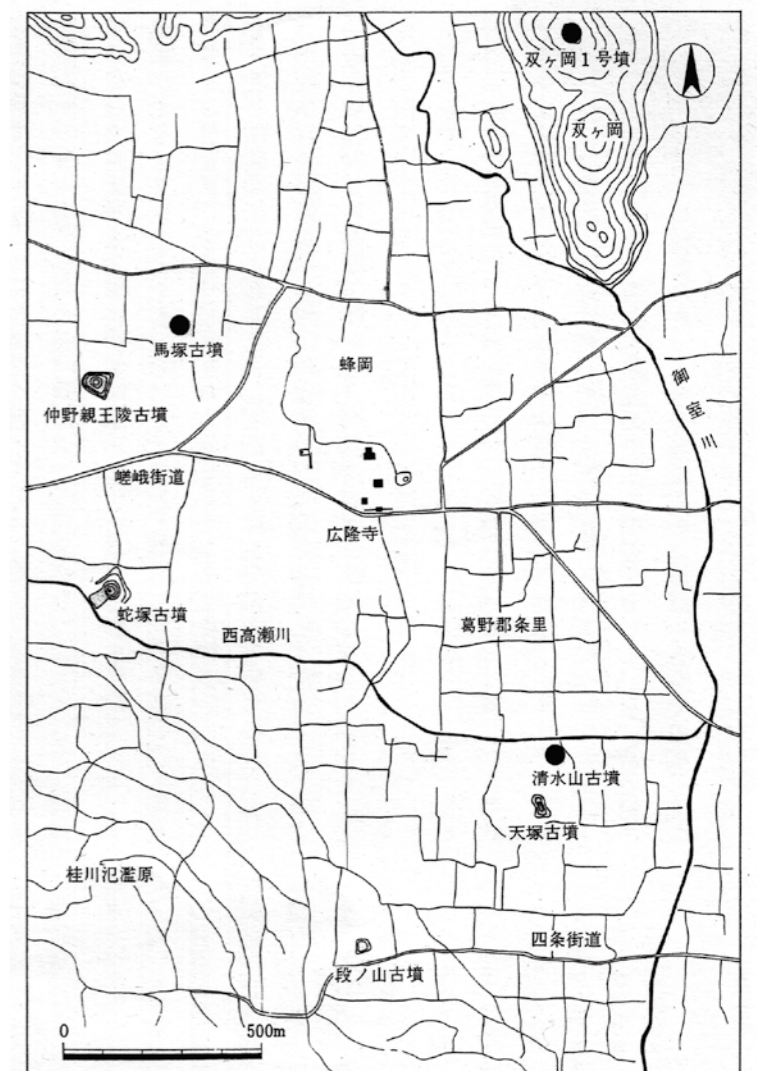


図5. 広隆寺周辺の古墳 (網 1995 より)



年代	主要論文（移建説）	主要論文（非移建説）	北野廃寺主要調査	広隆寺主要調査
1900	明治 平子鐸嶺1907「太秦廣隆寺の草創及其旧地について」			
1910	喜田貞吉1915「山城北部の條里を調査して太秦廣隆寺の旧地に及ぶ」			
	梅原末治1919「廣隆寺礎石及古瓦」			
1920	大正 梅原末治1923「太秦廣隆寺」	橋川正1923「太秦廣隆寺史」		
1930	川井銀之助1933「常住寺一名野寺址功」	小酒井儀三1933「廣隆寺の創建と經營」		
	昭和			
1940	石田茂作1936『飛鳥時代寺院址の研究』	藤沢一夫1938「山城北野廃寺」	1936北野白梅町で寺跡発見・府史蹟調査会調査	
		井本正三郎1940「山城北野廃寺南遺跡の研究」		
		田中重久1944「廣隆寺創立の研究」		
1950	毛利久1948「廣隆寺本尊と移建の問題」			
	向井芳彦1953「廣隆寺草創考」			
1960			1958京大考研調査	
			1965府調査(瓦積基壇)	
	葦田嘉一郎1966「野寺考」			
1970				1970平博調査(南北築地)
			1974・75六勝研調査(石列・溝・建物)	
			1977 1次調査(溝)・2次調査(建物)	1977市調査(基壇地業)・市調査(経塚)
			1978 3次(建物・溝)	
			1979 6次調査(建物・溝)・7次調査(瓦窯・建物・溝)	1979市調査(建物・縦穴住居)
1980	井上謙朗1980「山背斑鳩と秦氏」			1981・82府調査(上壙・鋳造遺構)
			1983 9次調査(南北・溝)	
		稲垣晋也1985「聖徳太子建立7箇寺院の創建と成立に関する考古学的考察」	1985 10次調査(溝・建物)	
			1986 11次調査(流路)	
			1987 12次調査(築地・溝)	
			1990 14次調査(建物)	1991市調査(溝)
1990				1992市調査
		岸本直文1992「7世紀北山背岩倉の瓦生産」		
		網伸也1995「廣隆寺創建問題に関する考古学的私見」		
		林南壽2003「廣隆寺史の研究」		

表 1. 広隆寺・北野廃寺に関する研究史・調査略年表(上村1995より)

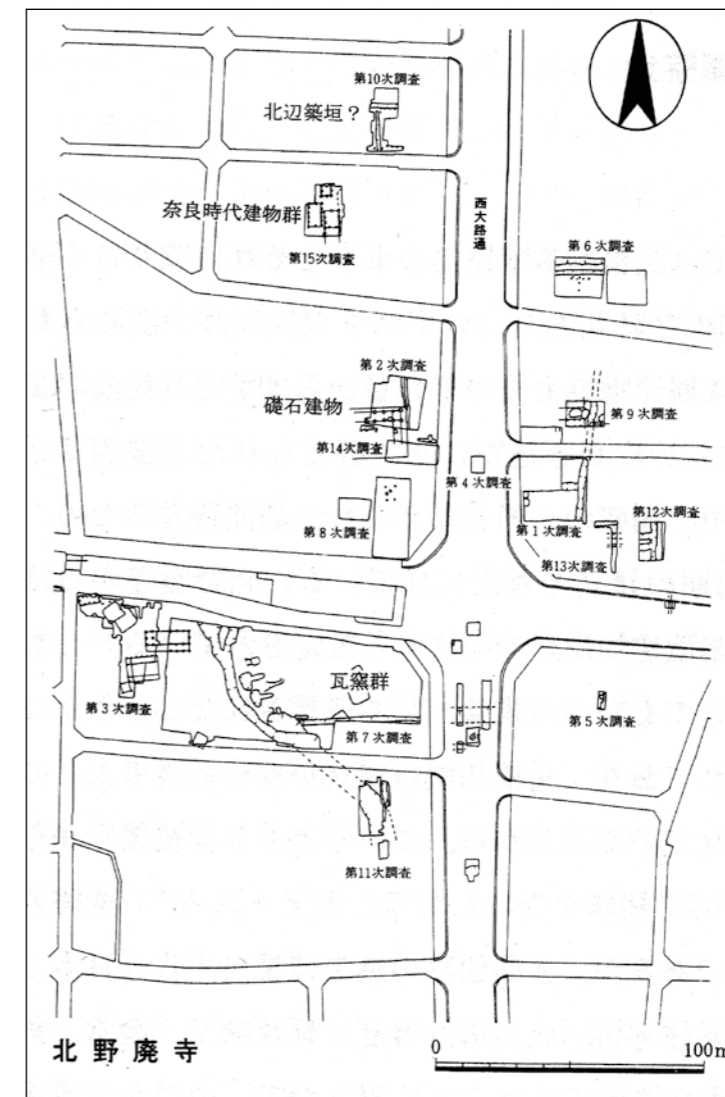


図 6. 北野廃寺遺構図  
(網伸也2001「畿内における在地寺院様相」『古代』第110号より)

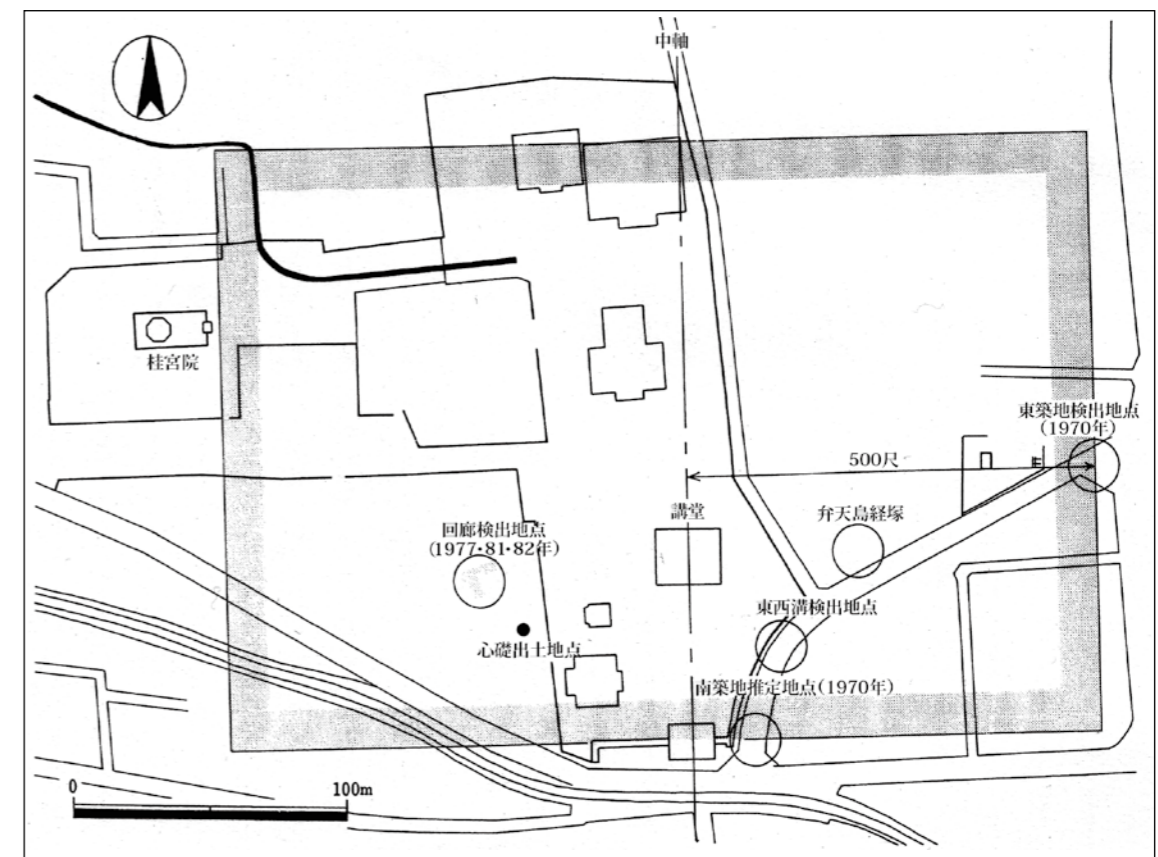


図 7. 広隆寺寺域復元図(網1995・上村1995より改変)



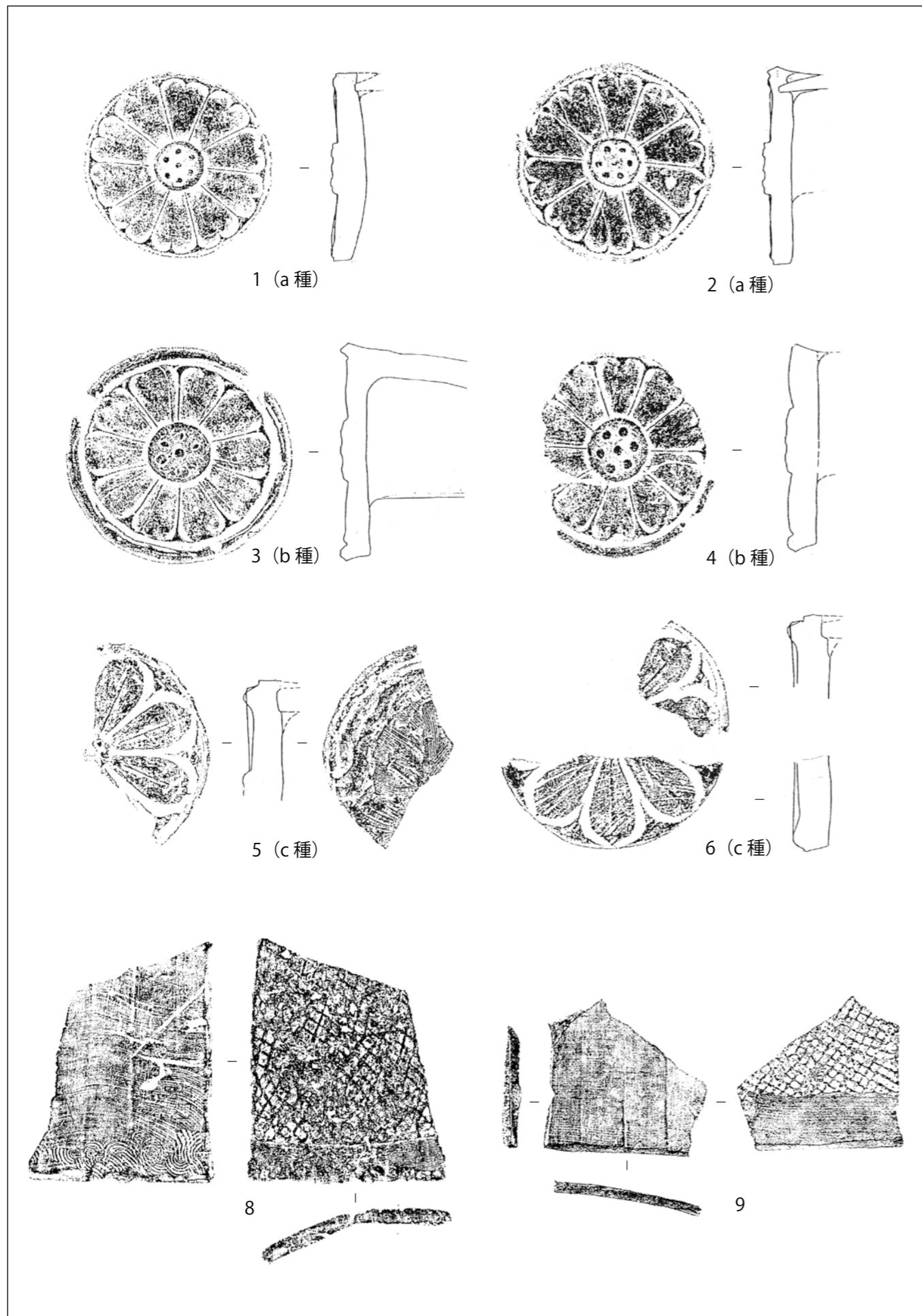


図8. 北野麩寺出土の創建瓦 (奈良文化財研究所『古代瓦研究 I』) 1~7 : S=1/4、8・9 : S=1/6

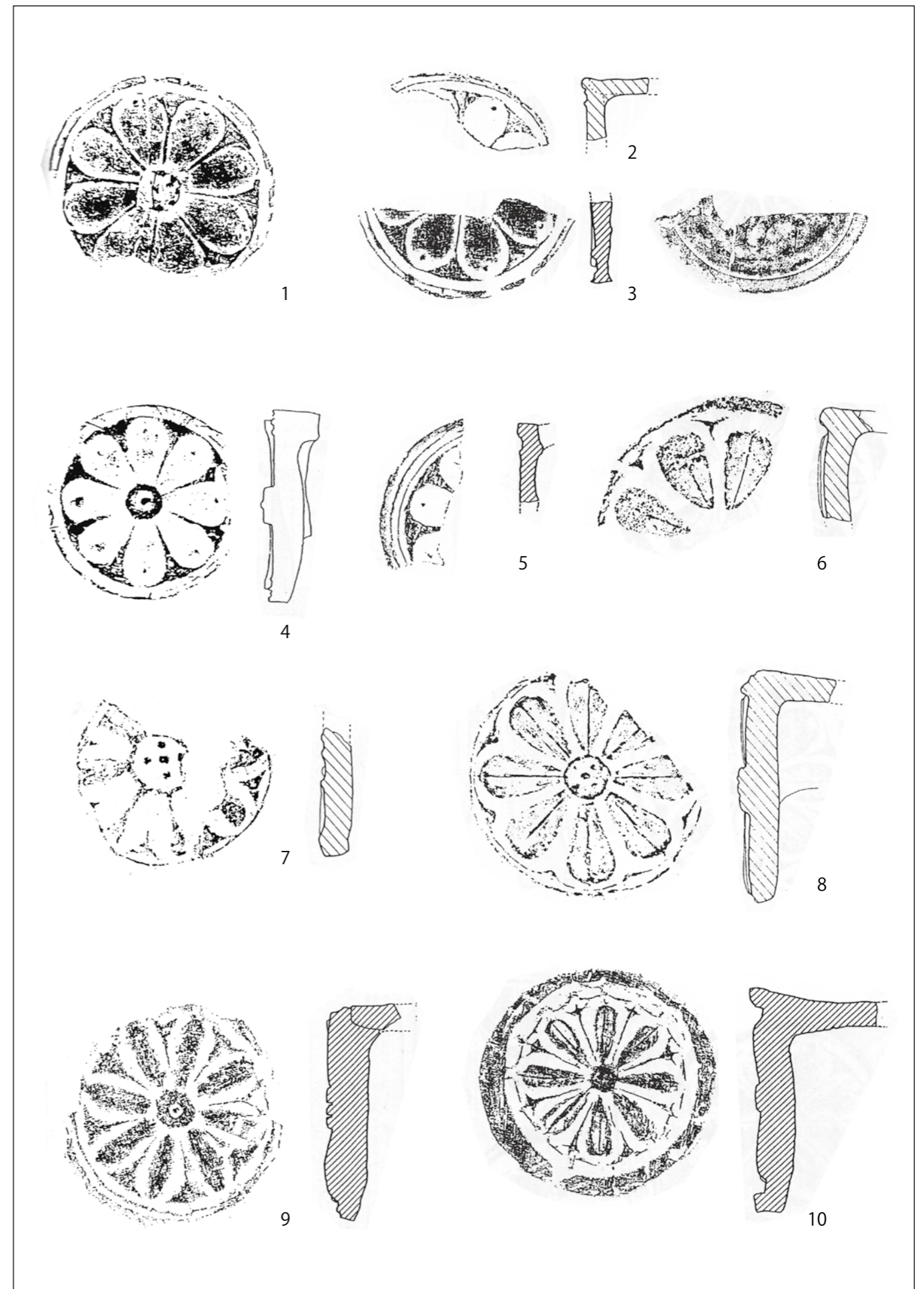


図9. 広隆寺出土の創建瓦 (奈良文化財研究所『古代瓦研究 I』) 1~10 : S=1/4